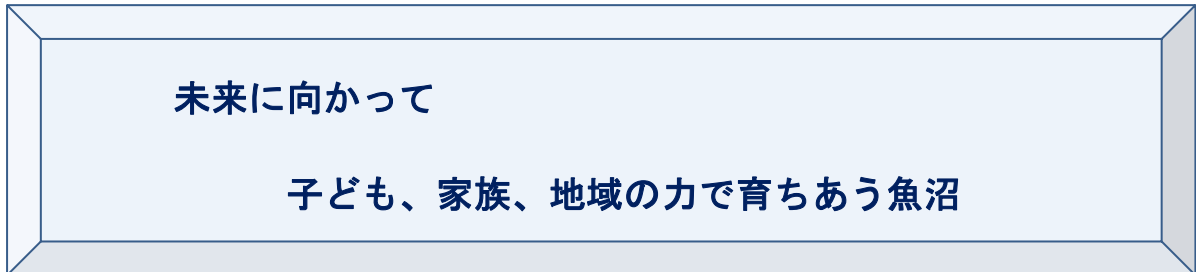
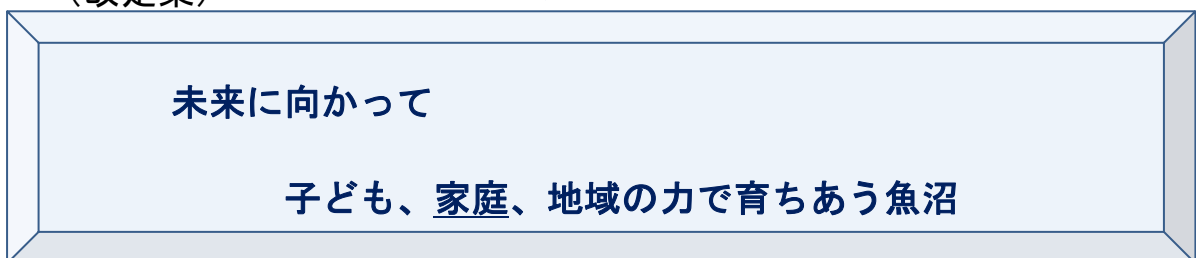


基本理念、計画の方向性（案）について

（1）基本理念（当初案）



（改定案）



■検討結果

① 「家族」か「家庭」か

今回の計画で、支援の対象は「家庭」である。

一緒に暮らしている家庭（家）を支援するという理念が計画の基本。

（参 考） 日本国語大辞典（小学館）

「家族」 夫婦・親子を中核として、血縁・姻族により結ばれた近親者を含む生活共同体。

「家庭」 一家の内。家。家内。また、家族。

夫婦、親子を中心にした血縁者の生活する最も小さな社会集団。また、その生活の場所。

② 「ともに育ちあう」か「育ちあう」か

「あう」が「ともに」の意味を包括している。

③ 「育ちあう」か「育ち合う」か

平仮名のほうが、多岐な意味やメージの膨らみを持つ。

(2) 基本的な視点 (当初案)

- 子どもの力 = 自ら豊かで幸せな生き方を切り開く力
- 家族の力 = 家族で子どもを育む力
- 地域の力 = 地域の中で子ども・子育てを支え合う力



(改定案)

- 子どもの力 = 自ら豊かで幸せな生き方を切り開く力
- 家庭の力 = 家庭で子どもを育む力
- 地域の力 = 地域の中で子ども・子育てを支えあう力

■検討内容

子どもを中心に考えたときにどのような支援ができるか
また、子育て支援をすることで、地域はどのようなようになっていくのか

- ① 子どもの力 → 具体的かつ短く。子ども目線の言葉。
- ② 家族の力 → 「家庭の力」(基本理念と同じ)
- ③ 地域の力 → 「支える力」か「支えあう力」か
(子ども・家庭を支援することで、地域も力を受ける。「育ちあう」と連動)

(3) 計画の方向性（当初案）

- ◆ 子どもの最善の利益が実現され、すべての親が子育てや子どもの成長に喜びや生きがいを感じることができるような「魚沼」を目指します。
- ◆ 子どもが社会の一員として、自立し成長していけるような「魚沼」を目指します。
- ◆ 少子化の進行、核家族化の進展、地域のつながりの希薄化など、子どもや子育て環境が変化している中で、次代を担うすべての子どもが健やかに育つよう、地域全体で子育て家庭を支え合えるような「魚沼」を目指します。



(改定案)

- ◆ 子どもの最善の利益が実現され、すべての親が子育てや子どもの成長に喜びや生きがいを感じることができるようなまちを目指します。
- ◆ 子どもが社会の一員として、自立し成長していけるようなまちを目指します。
- ◆ 少子化の進行、核家族化の進展、地域のつながりの希薄化など、子どもや子育て環境が変化している中で、次代を担うすべての子どもが健やかに育つよう、地域全体で子育て家庭を支えあえるようなまちを目指します。

※ 基本理念で「魚沼」と出しているので、ここでは「まち」の表記とする。